

体育科の教育と フェアプレイの 精神からスポーツの あり方を考える

専門分野 スポーツ教育学、体育科教育学、スポーツ倫理学、スポーツ史

担当科目 スポーツ教育学特論など

梅垣 明美 教授

略歴

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科修了。
中学校の保健体育教師を数年経験。その後、民間企業に十数年勤務。
2007年より大阪体育大学准教授、2011年より大阪体育大学教授に。

著書・研究論文

『よくわかるスポーツ倫理学』（共著・ミネルヴァ書房・2017年）
中学校の体育授業におけるTPSRモデルの効果の転移及び保持に
関する検討（梅垣明美 ほか）体育学研究,61(2):503-516,2016年
中学生の体育授業を対象としたチームビルディング学習の開発と
その有効性の検討（梅垣明美 ほか）体育科教育学研究,
32(2):1-18,2016年

スポーツ教育学・体育科教育学の分野と、スポーツ哲学・スポーツ史の分野、この2分野を研究しています。前者のスポーツ教育学・体育科教育学の分野では、体育科の授業を通して、子どもや学校を変えるプログラムなどを考案しています。身体活動を伴う体育科の授業には、子どもの社会性や人間性を育む力があります。チームワークを育成するプログラム、規律を学ぶプログラムなど、子どもや学校が抱える課題に合わせた教材を開発し、実際に学校への提供を行っています。後者のスポーツ哲学・スポーツ史の分野では、フェアプレイの歴史やあり方について研究しています。キリスト教の影響下で生まれたフェアプレイの精神は、スポーツを行う人間の崇高な理性の産物だといえます。一方で、スポーツには暴力性や欲望を煽る側面もあり、フェアプレイの精神はそれらを抑制するために生まれたもの、いわば人間の情動からの産物だとも考えられます。この分野では、理想的なフェアプレイの形を模索しながら、より良いスポーツ文化への貢献をめざしています。

授業では、現代スポーツに見られるドーピング、八百長・違法賭博などの問題を取り上げ、それらの是非を倫理的な観点から議論しています。人々を豊かに幸せにするスポーツ文化のあり方を考察し、それぞれの研究に活かしてもらえたらと思います。

キーワード

■スポーツ教育

スポーツ教育には、運動能力やスポーツ技術だけでなく、社会性や人間性を育む可能性がある。

■人格形成

体育科の授業は人格形成に影響を及ぼす。それを通して、子どもは責任ある行動や規律を学ぶ。

■フェアプレイ

公明正大にスポーツと向き合う態度。「対戦相手を思いやる」「勝っても驕らない」など。

■スポーツ・インテグリティ

選手の内面だけでなく、スポーツに関わる全ての人・全ての環境の高潔性をめざす考え方。